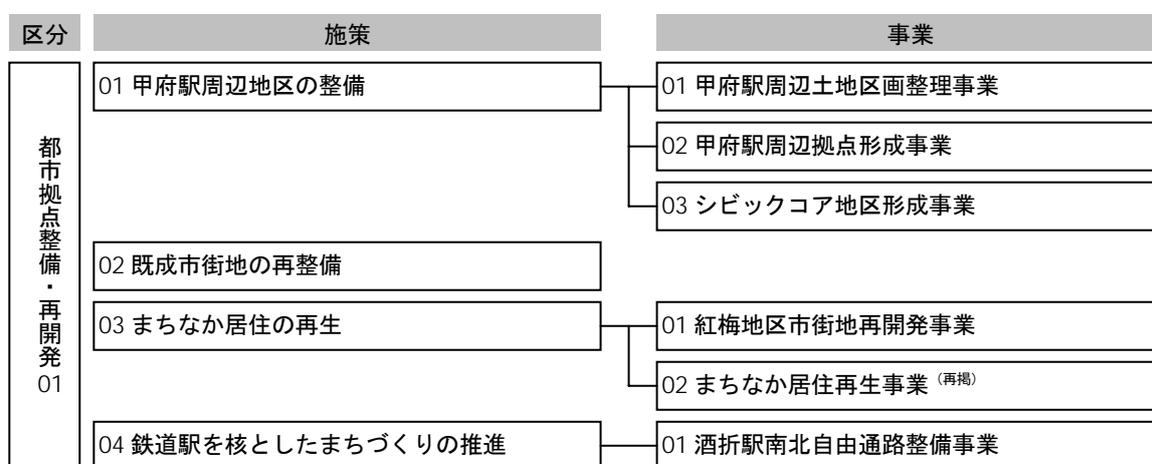


1 都市拠点整備・再開発

施策の基本的考え方

- 甲府駅周辺の大規模空閑地を活用し都市基盤の整備を充実し、新たな拠点施設の整備と企業立地の促進に努めます。
- 既成市街地において、住環境の改善及び安全なまちづくりの促進に努めます。
- 中心市街地の活性化と魅力あるまちづくりに努めます。
- 鉄道駅と連携した学園交流の拠点づくりに努めます。

施策・事業の体系



01 甲府駅周辺地区の整備

■甲府駅周辺土地区画整理事業 【事業No.05010101】	担当部課係名	都市	甲府駅周辺整備課	(外線)	230-1029
		建設部	換地係・補償係・拠点整備係		

事業概要

●旧国鉄操車場、貨物ヤードの廃止に伴う大規模空地を含む区域の基盤施設（道路・水路・公園、上下水道）を整備するとともに、優良な宅地を供給することを目的に区画整理事業を行う。

- ・ 施行面積 21.9ha
- ・ 施行期間 平成3年度～平成25年度
- ・ 平均減歩率 18.63%

現況と課題

●シビックコア地区整備は計画どおり進捗しており、今後朝日町通り西側の区画整理事業については住宅密集地のため計画的・効率的な事業推進を図る。

●仮換地指定率*は58.45% 家屋移転率*は15.61%

今後の事業展開

- 都市基盤整備の充実
- 宅地の利用増進

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値合計 (H18～20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
①家屋の移転棟数(棟)							
②仮換地指定率(%)	①14 ②51	①4 ②59	①37 ②71	①57 ②81	①68 ②91		①162 ②91
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18～20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	2,069,635		1,521,651	1,345,666	2,989,999	5,857,316	

■甲府駅周辺拠点形成事業 【事業No.05010102】	担当部課係名	都市	甲府駅周辺整備課	(外線)	230-1029
		建設部	拠点整備係		

事業概要

●県都甲府市の玄関口としてふさわしい利便性、安全性の高い交通環境へ改善するとともに、市民をはじめ観光で訪れる県内外の様々な人々が集い賑わいのあるまちづくりを目指す。

●歴史公園(6,039m²)・駅前広場(3,658m²)・多目的広場(4,827m²)の整備及び中央消防署(1,633m²)移転事業ふるさとスクエア(3,150m²)

- 施行面積 25.5ha
- 施行期間 平成15年度～平成21年度

現況と課題

●平成15年度にまちづくり総合支援事業(H15～19)の採択を受け、事業着手し、その後平成17年度にまちづくり交付金(H17～21)へと移行し、事業継続を図る。

●幹線道路網や駅前広場を一体的に整備し、交通結節機能の強化及び交通環境の改善による駅利用者の利便性を向上させる。

●民間活力等による商業・業務ビルなどの立地誘導を図り、都市拠点としての市街地の基盤形成を目指す。

今後の事業展開

- 甲府市歴史公園の整備(平成18年度完成)
- 駅前広場・多目的広場の整備(平成21年度完成)
- 中央消防署の移転(平成18年度完成)
- 歴史観光型集客施設の誘導(平成18年度完了)

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H18～20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
進捗率(%)	4.2	37.5	44.9	49.7	66.8		66.8
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18～20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	1,118,484		177,100	115,000	410,948	703,048	

■シビックコア地区形成事業 【事業No.05010103】	担当部課係名	企画部	計画調整課	(内線)	3069
			調整係		

事業概要

●地域の人々の安全で豊かな生活を支える官公庁施設と民間建築物等が連携することにより、そこで暮らす人々の利便性の向上や、関連する都市整備事業との整合が図れる等、総合的なまちづくりが可能なシビックコア地区整備制度を活用し、都市活動空間とゆとり空間が融合した魅力と賑わいのある都市拠点地区の形成を目指す。

現況と課題

●平成16年3月にシビックコア地区整備制度*による「甲府市シビックコア地区整備計画」の同意を国から得て、国の新合同庁舎、山梨県の新たな学習拠点、NHK新甲府放送会館などの誘致・整備を進めており、平成17年度には、事業の円滑な推進を図るべく『シビックコア地区整備推進連絡協議会』を設置し、会議を開催した。
●平成17年6月には、甲府市歴史公園築造工事に着手し、平成18年度の完成を目指している。

今後の事業展開

●シビックコア地区内の各街区が目指すコンセプトに合った整備誘導の促進を図っていく。
●各街区整備促進への取り組み ①合同庁舎の整備促進・甲府財務事務所との協議・関東地方整備局との協議 ②NHK甲府放送局との協議 ③山梨県との協議 ④JRとの協議 ⑤国鉄清算事業本部との協議 ⑥民間事業者への企業立地支援、再開発事業の啓発など。
●新合同庁舎などの整備促進を図るため、連絡協議会の開催を行っていく。

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度	
シビックコア地区整備進捗率 (整備済み面積/8.1ha)%	-	-	7.5	27.5	32.5		32.5
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	461		231	231	231		693

03 まちなか居住の再生

■紅梅地区市街地再開発事業 【事業No.05010301】	担当部課係名	都市	建築指導課	(内線)	3812
		建設部	開発指導係		

事業概要

●紅梅地区は、本市の中心市街地を構成する JR 甲府駅、舞鶴城公園、中心部の商店街などを有機的に連絡する結束地点である一方、地区内には老朽化した商業施設と駐車場が存立しており、より土地の高度利用と都市機能の更新が強く求められていることから、市街地再開発事業を通じて新たな商業施設、駐車場及び集合住宅の整備を進める。

現況と課題

●中心市街地において人口減少、高齢化の進行、空き店舗の増加等の空洞化の傾向は依然として続いており、中心市街地の活性化に向けた取り組みが必要とされている。そのような状況の中、紅梅地区において地権者等により「市街地再開発準備組合*」が設立され基本計画案の調査検討が進められている。
●本市としては、中心市街地活性化に寄与できる市街地再開発事業を促進するために、市街地総合再生計画*や推進計画の策定を行い都市計画事業としての位置付けを明らかにするとともに、費用便益分析を行い公共事業の効率性と実施過程の透明性の確保の観点から、社会的側面での事業評価を行った。

今後の事業展開

●H18年3月に市街地再開発事業及び高度利用地区*の都市計画決定を行い、特定の再開発組合が施行する第一種市街地再開発事業として位置付けた。今後具体的な事業計画の検討を進め、H18年に組合設立認可並びに事業計画認可を目指す。
●H19年度に権利変換計画の認可、既存の建物解体、再開発ビルの建築に着手し、H21年度の完成を目指す。

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値合計 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度	
-	-	-	-	-	-		-
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	9,000		264,300	1,275,400	1,013,600		2,553,300

■まちなか居住再生事業 【事業No.05010302←No.03040101】再掲	担当部課係名	都市	都市計画課	(内線)	3843
		建設部	計画係		

04 鉄道駅を核としたまちづくりの推進

■酒折駅南北自由通路整備事業 【事業No.05010401】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84-532
		建設部	工事係		

事業概要

- 都市計画マスタープランの重点施策に位置づけられた「学園交流拠点の形成」の一環として施行するものであり、酒折駅南北自由通路・酒折駅北口進入道路・南北駅前広場及び駐輪場を整備し、JR中央線で分断されている酒折駅南北の一体的土地利用を促し地域の活性化を図る。
- 主要地方道甲府韭崎線と国道411号を連結する道路（酒折駅南北自由通路は自転車歩行車道）を整備し、酒折駅を利用する学生や地域住民の交通利便性の向上を図る。
- 酒折駅南北自由通路（自転車歩行車道）整備 L=30m W=4.0m 酒折駅南北駅前広場整備 A=3,000m²

現況と課題

- 甲府市の東の玄関口が整備されるため市民の期待は大きい。
- 自由通路整備にあたっては、JR東日本や山梨県など関係機関と協議し、施工分担や管理区分を明確にしなければならない。
- 南北両駅前広場整備工事施工に当たっては、自由通路整備工事との工程調整が必要となる。
- 南口駅前広場整備工事施工時は、仮設駐輪場の確保が必要になる。

今後の事業展開

- 各年度の事業については、別途細目協定（年度別協定）を締結し実施する。
- 南口駅前広場整備事業に関しては、山梨県と協議し施工分担、管理区分を決め施工する。
- 北口駅前広場整備事業は甲府市が施工する。
- 平成19年度の事業完成を目指す。

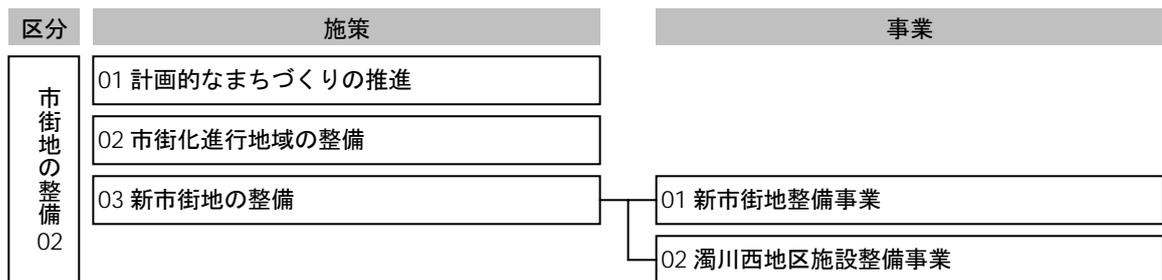
成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
進捗度(%)	29.2	49.4	82.7	100	—	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	292,000		298,200	330,000	—	

2 市街地の整備

施策の基本的考え方

- 都市計画マスタープラン*、土地利用計画を見直します。
- 地区計画*制度を活用し、地域の特性を生かした住民によるまちづくりを推進するとともに、適切な土地利用を図る民間開発の誘導に努めます。
- 面的整備によるまちづくりの促進と開発事業への対応に努めます。

施策・事業の体系



03 新市街地の整備

■新市街地整備事業 【事業No.05020301】	担当部課係名	都市	都市計画課	(内線)	3807
		建設部	計画係		

事業概要

- 「甲府市都市計画マスタープラン（市策定）」及び「甲府都市計画区域マスタープラン（県策定）」に基づき、対象区域内における将来のまちづくり意向調査や「地区計画の設定」等を通じての市街化区域編入の啓発を行う。

現況と課題

- 本市では、既に少子・高齢化が進行しており、人口減少の局面に入っている。
- 今後は、本格的な少子・高齢社会や人口減少時代に対応した「集約型のまちづくり」を行い、既成市街地の再編により、活気に溢れた環境にも優しいまちづくりを目指す必要がある。

今後の事業展開

- 「甲府市都市計画マスタープラン」で定められた新市街化区域編入の目標面積が約100haであり、平成17年4月に濁川西地区約74haが市街化区域に編入されたため、現在の目標面積は約26haとなったことを踏まえ、既成市街化区域の隣接区域を中心に施策展開を図る。
- 地域特性を有する魅力的なまちづくりの実現に向けて、地域主導による「まちづくり研究会」の設立を促し、その活動支援を行う。

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値合計 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度		
土地区画整理事業、 地区計画の設定箇所数	—	1	1	1	1		3
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	2,217		1,897	1,000	1,000		

■濁川西地区整備事業 【事業No.05020302】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84- 532
		建設部	工事係		

事業概要

- 平成17年度に市街化区域に編入した濁川西地区（74ha）内の地区施設としての道路・公園の整備を行い、良好な市街地整備を進める。

現況と課題

- 平成17年度から5カ年間（21年度）については、集中的な整備に努め、早期の市街地形成を誘導し事業効果を高める。
- 用地の買収における地権者交渉や整備時期や整備順位の検討が肝要となる。

今後の事業展開

- 全体の整備計画は、区画道路*9路線、総延長2,510mと街区公園*を1箇所整備する。
- 計画路線は、市道として順次整備する。

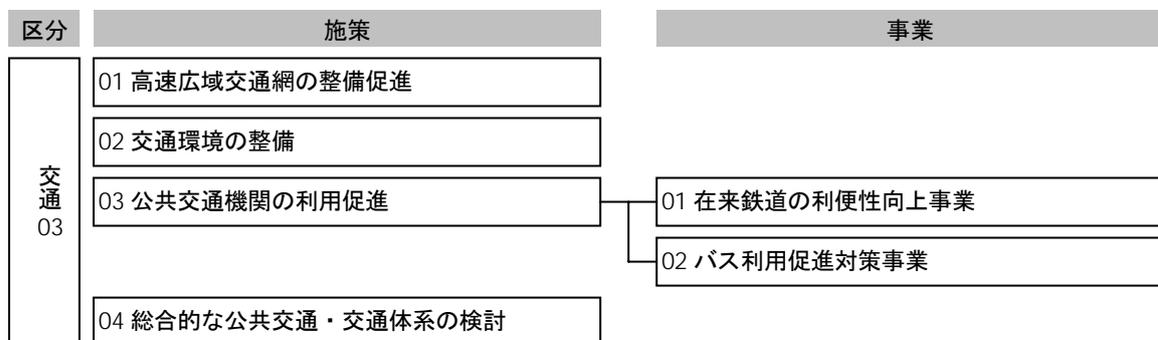
成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度		
進捗度(%)	—	3.5	9.5	15.5	31.3		31.3
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	23,117		8,800	10,800	16,300		

3 交通

施策の基本的考え方

- 新たな国土軸*の形成による道路ネットワークの構築により、社会経済活動の変化に対応した地域活性化を図るため、高速交通網と地域高規格道路*の早期整備・促進に努めます。
- 市内中心部を通過する交通を排除することによる交通渋滞の解消を図るため、放射型道路と有機的に結ぶ環状道路の整備・促進に努めます。
- 在来鉄道及び路線バスの利便性を向上させるとともに、高齢者や障害者の日常の移動の手段として利用できる環境を整え、利用促進に努めます。
- 新時代に対応し、新たな交通システム*や既存の交通体系の連携改善により、新時代の交通体系を総合的に検討します。

施策・事業の体系



03 公共交通機関の利用促進

■在来鉄道の利便性向上事業 【事業No.05030301】	担当部課係名	企画部	政策課	(内線)	3026
			政策係		

事業概要

- JR 中央線、身延線の利用促進を図ると共に、沿線地域の活性化を図るため、利用者の利便性の向上、沿線他関係市町村の産業や観光の宣伝及び鉄道利用促進の啓発活動などを行う。

現況と課題

- 現況①鉄道活性化事業による利用啓発②要望活動による地域要望の実現③各協議会等への活動参加・中央線沿線活性化促進協議会(事務局)・身延線沿線活性化促進協議会(幹事)・中央東線活性化期成同盟会(副会長)・中央線高速化推進ワーキング(構成員)
- 課題①地域要望の実現②各協議会の連携

今後の事業展開

- 各協議会の連携を強化する取組を行う⇒要望活動の共同実施を検討する。
- 鉄道事業者等との共同した活性化策を検討⇒会員相互の情報交換、交流。
- 交通バリアフリー化*を促進し、高齢者や身障者等の交通弱者の利便性を向上させる。
- 環境面から公共交通機関の利用を促進する。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
			平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	
甲府駅及び酒折駅の年間乗車人員数合計(人)	5,964,830	—	6,060,000	6,060,000	6,060,000	6,060,000
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
	325		800	325	325	1,450

■バス利用促進対策事業 【事業No.05030302】	担当部課係名	市民生活部	総務課	(内線)	3351
			交通安全係		

事業概要

- 営業ベースに乗らない赤字路線バスへの助成、廃止路線への代替バス運行及び市営バスの運行(市立甲府病院~古閑町線平成 18 年 3 月 1 日から運行)

現況と課題

- バス利用者の減少に伴い、路線の赤字額が増大しており、それに伴う運行回数の削減、路線の組み換えを行っている。代替バスは、現在 5 路線を委託運行しているが、経費が年々増大しているため、関係市町村・事業者との協議を行っているが解決策が見出せない状況にある。

今後の事業展開

- バス路線の必要性を検証・分析する中で、関係市町村と継続的に協議するとともに、利用促進のための PR に努めていく。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
			平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	
補助金路線及び代替バス路線の延べ利用者数(人)	399,200	394,700	400,000	401,000	402,000	402,000
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
	69,982		79,945	78,912	78,912	237,769

4 幹線道路

施策の基本的考え方

- 広域交通網の整備やそれと連携する地域の骨格となる道路網の整備に努めます。
- 災害時の避難路・都市の景観やすべての人に利用しやすい道づくりに配慮した計画的な道路整備に努めます。

施策・事業の体系

区分	施策	事業
幹線道路 04	01 広域・地域交通道路の整備	01 都市計画道路の整備事業（県施行事業の負担金）
		02 善光寺町敷島線整備事業（徳行工区）
		03 千塚三丁目羽黒町線整備事業（千塚工区）
	02 防災・景観・福祉に配慮した計画的なみちづくりの推進	01 都市計画道路整備検討費

01 広域・地域交通道路の整備

■都市計画道路の整備事業（県施行事業負担金） 【事業No.05040101】	担当部課係名	都市	都市計画課	(内線)	3808
		建設部	計画係		

事業概要

- 本事業は、市の中心部を通過する広域東西軸として、主要幹線道路を整備するものである。
- 事業対象の都市計画道路*：愛宕町下条線は、現在、県施行事業として富士見工区、荒川渡河工区を施工しており、整備が完了する平成22年度には、甲斐市（旧敷島町）から甲府駅北口の武田通り（約4,300m）までが全線開通するため、市民の利便性が格段に向上する。
- 本路線は山の手通りのバイパスや中心市街地へのアクセス道路としての機能を持つ、多機能道路として位置付けられている。

現況と課題

- 整備は着実に進んでおり、既に甲府駅北～市道富士見通りと旧敷島町分については供用開始されている。沿線にある県立中央病院が平成17年3月22日に改築工事が完了し、来院車輛等にとって、本線の早期開通への期待は大きいものと思われる。
- 本路線からの県立中央病院への主要進入路として、都市計画道路和戸町山宮島上条線の利用増加が見込まれるが、当路線は未整備のため病院周辺地域の道路の混雑が予想される。よって、進入路として早期整備する事が必要である。

今後の事業展開

- 道路の供用により、市民要望に対し満足ある成果を達成する事となるので、今後も着実な整備推進を図る。
- 事業の着実な推進とともに、問題点・課題に対し県・市一体となって取り組んで事業のコスト削減を図る。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
			平成16年度	平成17年度	平成18年度	
荒川渡河工区(%)	7	33	50	67	79	79
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	262,500		450,000	347,500	225,000	

■善光寺町敷島線整備事業（徳行工区） 【事業No.05040102】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84-532
		建設部	工事係		

事業概要

- 本工程は、都市計画道路*塩部町開国橋線（アルプス通り）と市道南西15号線を結ぶ工区であり、甲府市中心部から郊外に延びる放射型道路を連結する環状型道路の一環として整備することにより、中心部に向かう交通の流れを分散させ、交通渋滞の解消、地域環境の改善及び交通利用者の利便性向上を図るものである。
- 整備延長L=450m 幅員W=12.0m

現況と課題

- 平成3年に事業着手し、用地買収を進めるとともに市道南西15号線から西側約70mの整備を行った。
- 都市計画道路*塩部開国橋線との交差点は、現況の5叉路として暫定共用できるよう県道・市道の道路管理者及び交通管理者と協議済みである。
- 道路敷地内に復旧する水路については、地元関係団体との協議が必要である。

今後の事業展開

- 平成17年度中に用地取得を終了し、平成18年度に整備工事を施工し事業完了を目指す。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
			平成16年度	平成17年度	平成18年度	
進捗度(%)	70.6	80.1	100	-	-	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	147,191		133,200	-	-	

■千塚三丁目羽黒町線整備事業（千塚工区） 【事業No.05040103】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84-532
		建設部	工事係		

事業概要

- 現在、千塚公園は平成 18 年度の完成を目指し整備中であるが、周辺には広幅員の道路がなく開園すると交通障害の発生する事が予測される。このことにより、本路線は、防災上の避難路ともなりうる事から周辺地域より整備要望の強い路線でもある。当面、公園の利便性の向上を図る観点から千塚工区の整備を早急に行なう必要がある。
- 整備延長 L=470m 幅員 W=12.0m

現況と課題

- 地域幹線道路として、また平成 18 年度に供用開始が予定されている千塚公園への進入道路として整備を求める要望が強い。
- 主要地方道甲府韮崎線と交差するため、県道路管理者及び交通管理者との協議が早急に必要となる。

今後の事業展開

- 平成 18 年度 用地測量・実施設計委託、説明会、
- 平成 19 年度 用地調査委託・不動産鑑定業務委託、地権者への用地交渉等
- 平成 20 年度～平成 24 年度 事業実施期間

成果指標	実績値		見込み値			目標値		
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	目標値 (H18～20)		
進捗度(%)	—	—	0.7	1.9	6.0	6.0		
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18～20)		
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度			
	—		11,349	19,800	468,930	500,079		

02 防災・景観・福祉に配慮した計画的なみちづくりの推進

■都市計画道路整備検討費 【事業No.05040201】	担当部課係名	都市	都市計画課	(内線)	3808
		建設部	計画係		

事業概要

- 県施行により、甲府都市圏の総合都市交通体系調査（パーソントリップ調査*）を実施する。対象区域は甲府都市計画区域とし、県・3市・1町が負担金を分担支出する。
- 調査結果は、今後の都市計画道路の整備方針や公共交通の整備体系の見直しの資料となる重要なものである。

現況と課題

- 都市計画道路*の中には都市計画決定後、何十年経過しても整備が進まないものがある。また、近年社会的・地域的なニーズに応えるために、都市計画道路の機能変更等、地域社会に合った効率的なみちづくりが求められるようになっている。今後は、総合都市交通体系調査の結果を解析した上で、都市計画道路網の見直しを進めて行く必要がある。
- 道路整備に対する市民の要望は多く、都市計画道路の整備についても要望・陳情が多くの路線に出されている。市民の期待に応える道路整備を進めるためにも、効率的・効果的な整備を図る必要がある。

今後の事業展開

- 交通調査（パーソントリップ）の取組み予定
 - 平成 16 年度 企画・準備
 - 平成 17 年度 交通実態調査の実施
 - 平成 18 年度 調査結果の解析・将来交通量の検討
 - 平成 19 年度 交通計画の策定
 - 平成 20 年度 都市計画道路網等の見直し

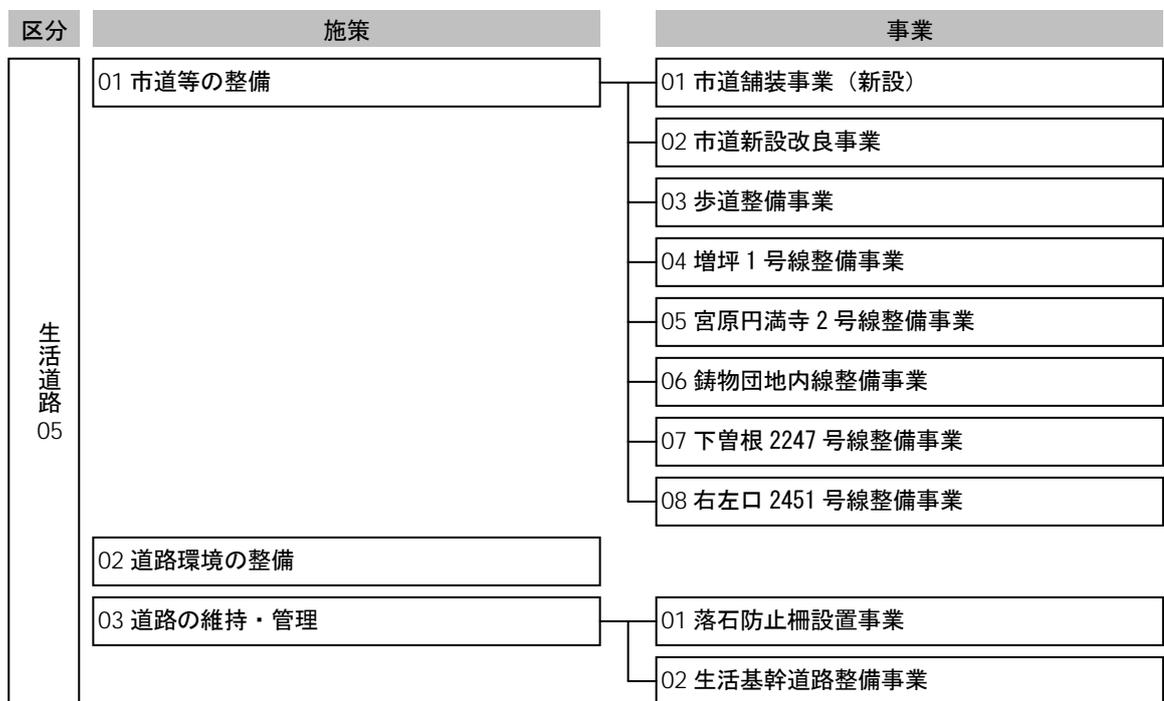
成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値合計 (H18~20)
			平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	
—	—	—	—	—	—	—
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
	16,324		7,390	6,600	—	

5 生活道路

施策の基本的考え方

- 地域の利便性を図るために道路整備を推進するとともに、交通安全や防災上から狭小道路の拡幅整備に努めます。
- バリアフリー化*・植栽・電線類の地中化*を推進し、人にやさしい道づくりに努めます。
- 市道の適切な維持補修、道路工事の適切な施工管理の推進、不法占拠の是正推進や里道等の適切な管理に努めます。

施策・事業の体系



01 市道等の整備

市道舗装事業（新設） 【事業No.05050101】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84-532
		建設部	工事係		

事業概要

- 市道の舗装新設を実施することにより、市民生活の安全性と快適性の向上を図る。

現況と課題

- 厳しい財政状況から、施工実績は減少している。
- 道路改良工事と工期等の調整を図る中で施工する必要がある。
- 身近な生活道路の舗装工事に対して市民の期待は大きい。

今後の事業展開

- 計画的かつ効率的な事業推進を図る。

成果指標	実績値		見込み値			目標値			目標値合計 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
百万円以上(件)	2	8	5	8	8				21
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)						計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度				
	11,000		13,000	13,000	13,000				39,000

市道新設改良事業 【事業No.05050102】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84-532
		建設部	工事係		

事業概要

- 生活道路（市道）を整備し、地域環境の改善や交通利便性の向上を図る。

現況と課題

- 市道改良の要望・陳情は多いが、厳しい財政状況から施工実績は減少している。
- 市街地路線は、補償費が大きく迅速な事業進捗が困難である。
- 狭小幅員の道路が多く、道路改良に対する市民ニーズは高い。

今後の事業展開

- 市民や地域から要望された路線の中から、緊急度や費用対効果の優れた路線を選定し、迅速な施工を行う。

成果指標	実績値		見込み値			目標値			目標値合計 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
百万円以上(件)	5	9	13	13	13				39
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)						計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度				
	43,243		80,580	80,580	80,580				241,740

■歩道整備事業 【事業No.05050103】	担当部課係名	都市	道路河川課	(内線)	3758
		建設部	道路係		

事業概要

- 市民、特に子供や高齢者、障害者が、安心して安全な通行を行うことができるよう、歩道改良・整備を行う。

現況と課題

- 市道：高畑西条線（昭和通り）を主に事業を推進している。同時に排水性舗装への改良も並行して行っていることもあり、住民から速やかな事業の推進が求められている。

今後の事業展開

- 今後も効率的な改修を推進する。

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度	
歩道改良施工率(%) (施工延長/目標延長)	94	94	100	100	100	100	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	20,000		20,000	20,000	20,000	60,000	

■増坪1号線整備事業 【事業No.05050104】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84- 532
		建設部	工事係		

事業概要

- 本路線は、甲府市東南部における幹線道路であり、市立甲府病院や小瀬スポーツ公園に集中する交通量を、国道20号と市道寺前線に分散させ、地域の交通流の円滑化及び交通利便性の向上等を図るものである。
- 整備延長L=1,600m 幅員W=16.0m

現況と課題

- 整備延長(L=1,600m)の内、既に80%の用地買収を終え、国道20号からL=400mの区間を整備し供用開始している。
- 道路区域内で施工する水路改修工事に伴い、水路構造等の問題について地元関係者との協議が必要となっている。

今後の事業展開

- 工事施工に伴う地元協議（水路改修等）を進め、用地買収済み箇所から順次工事に着手し、早期完成を図る。

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度	
進捗度(%)	74.2	75.2	79.1	82.6	86.2	86.2	86.2
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度		
	29,200		112,000	100,000	100,000	312,000	

■宮原円満寺 2号線整備事業 【事業No.05050105】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84-532
		建設部	工事係		

事業概要

- 本路線は、主要地方道甲府中央右左口線と市道宮原円満寺線を結ぶ幹線道路として整備し、地域内道路の渋滞解消、地域の有効な土地利用の促進及び交通利便性の向上を図るものである。
- 整備延長 L=630m 幅員 W=12.0m

現況と課題

- ボトルネック*解消市町村道県代行事業として山梨県と事業協定を締結し、事業費の 1/2 を県負担として施工している。
- 地元からは、地域内の幹線道路として早期整備するよう要望がある。

今後の事業展開

- 本事業には宮原円満寺 2号線と宮原 2号線が含まれているが、基幹となる宮原円満寺 2号線を早期に完成させ、引き続き宮原 2号線に着手し平成 22 年度の完成を目指す。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
進捗度(%)	23.3	27.3	31.3	37.9	44.6	44.6
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
	30,000		30,000	30,000	30,000	

■鑄物団地内線整備事業 【事業No.05050106】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84-534
		建設部	工事係		

事業概要

- 国道 20 号と主要地方道甲府市川三郷線及び甲府市道高畑西条線が交差する国母交差点は県内有数の渋滞発生個所であり、従来からその対策が指摘されていた。平成 14 年、学識経験者や地元住民などで構成される「国母交差点渋滞対策検討委員会」が設立され、渋滞解消に必要な対策について検討が行われた。この結果、短期対策として ①国母交差点の右折・左折レーンの増設 ②鑄物団地内線の改良 ③大規模商業施設管理者への駐車場の増設依頼を早急に実施すべきとの答申が出された。この答申を受け、山梨県で実施したシミュレーション*の結果、渋滞が解消されることが判明した。
- この結果を受け、国・県・市においてそれぞれ役割分担を決め事業を実施することとなった。市では、②の鑄物団地内線の改良を実施し、国母交差点の渋滞解消及び地域交通環境の改善を図るものである。
- 整備延長 L=410m (改良工事 L=170m W=16m 歩道設置 L=240m W=3m)

現況と課題

- 本事業は、国母交差点渋滞解消事業の一環として国・県・市及び民間が連携し短期に事業完成を図り、整備効果を出さなければならないものである。
- 本路線の整備にあたっては、用地の買収・物件補償に困難が予想される。
- 国、県の事業と施工管理・工程管理等について綿密な調整が必要となる。

今後の事業展開

- 平成 18 年度 用地測量・実施設計委託、物件補償調査委託、説明会、地権者への用地交渉等
- 平成 19 年度 地権者への用地交渉、用地買収等
- 平成 20 年度 地権者への用地交渉、用地買収、工事着手等
- 平成 21 年度 工事完了

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
進捗度(%)	—	—	5.3	75.3	98.6	98.6
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
	—		26,000	342,900	114,300	

■下曾根 2247 号線整備事業 【事業No.05050107】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84- 532
		建設部	工事係		

事業概要

- 本路線は、甲府市南部を南北に走り、国道 358 号と国道 140 号を結び甲府南 I・C に至る市道で、車両の交通だけでなく通学路としても重要な路線であり、歩道も一体的に整備し安全性快適性を図るべく整備するものである。
- 整備延長 L=250m 幅員 W=12.0m

現況と課題

- 整備延長 L=250m の内、国道 140 号より L=70m の区間の整備が終わっている。
- 本計画の中間を間門川が横断しているが、現在山梨県で河川改修の計画（平成 22 年に完成予定）があり、今後用地及び橋梁の協議が必要となっている。

今後の事業展開

- 工事施工に伴い山梨県（間門川改修計画）と協議を進め、早期完成を図る必要がある。

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H18~20)
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度		
進捗度(%)	9	14	30	65	100		100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18~20)
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度		
	-		64,000	64,000	140,000		

■右左口 2451 号線整備事業 【事業No.05050108】	担当部課係名	都市	都市整備課	(内線)	84- 532
		建設部	工事係		

事業概要

- 本路線は、甲府市の南部を南北に走り、市道をつなぐ重要な路線であり、ここで拡幅整備を行い車交通及び歩行の安全性、快適性を図り地域貢献をするものである。
- 整備延長 L=440m 幅員 W=7.0m

現況と課題

- 整備延長 L=440m の内、L=200m の区間の用地買収補償が終わっている。
- 地元からは、地域内の幹線道路として早期整備するよう要望がある。

今後の事業展開

- 工事施工に伴い地元地権者等との協議を進め、用地済み箇所から順次工事着工し、早期完成を図る。

成果指標	実績値		見込み値		目標値		目標値 (H18~20)
	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度		
進捗度(%)	-	20	40	70	100		100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)				計画額合計 (H18~20)
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度		
	-		20,084	20,000	45,000		

03 道路の維持・管理

■落石防止柵設置事業 【事業No.05050301】	担当部課係名	都市	道路河川課	(内線)	3758
		建設部	道路係		

事業概要

- 落石による危険が予想される個所に、土留め工及び注入接着・防護柵等により落石、崩落を防ぐ施工を施し、道路利用者の安全を確保する。

現況と課題

- 特に、昇仙峡遊歩道においては、国の特別指定地域等のため施工に対する規制が非常に強く、特殊な施工となる。
- なお、対象山林管理者に、危険箇所のデータを送り、効果的な法面*の保護を依頼している。

今後の事業展開

- 道路の安全性の確保のため、規制の許す範囲で効果ある施工を推進する。また、影響範囲が膨大であるため、対象山林管理者に落石防止対策の協力を求めながら推進する。

成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
			平成16年度	平成17年度	平成18年度	
施工率(%) (施工実績/施工目標)	100	100	100	100	100	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	3,700		7,800	7,800	7,800	

■生活基幹道路整備事業 【事業No.05050302】	担当部課係名	都市	道路河川課	(内線)	3758
		建設部	道路係		

事業概要

- 金川曽根隧道(トンネル) 整備延長L=481m
- 市道平岡・前田線に位置する中道地区と笛吹市に跨る「金川曽根隧道(トンネル)」の安全性確保のための補修工事に関する事業を実施する(笛吹市との共同事業)。
- 現況調査(レーダー探査、超音波測定等による調査、解析および補修方法の提示)を平成18年度に実施した後、調査結果に基づき必要に応じた補修工事の設計・施工を行う。

現況と課題

- トンネル内壁に多数のクラックがあり、今後において、コンクリートの落下等が危惧されることから、通行の安全性確保のため、「金川曽根隧道」の補修に関する調査を行った後、必要な補修工事を行う必要がある。
- 隧道は、笛吹市との境界に位置するため、両市の合意による事業推進が必要である(調査および設計委託については、合意済、補修工事については、調査結果により協議)。

今後の事業展開

- 平成18年度に笛吹市と共同で委託調査を行う(笛吹市と協議済)。その結果を基に、設計委託、補修工事等について、笛吹市と協議し事業を推進する。
- 平成18年度(調査費):6,470千円(市単独費、笛吹市負担金 2,600千円有)、平成19年度(委託設計概算):5,100千円(市単独費、笛吹市負担金有)、平成20年度(補修工事見込み):100,000千円(市単・起債対象、笛吹市負担金有)。

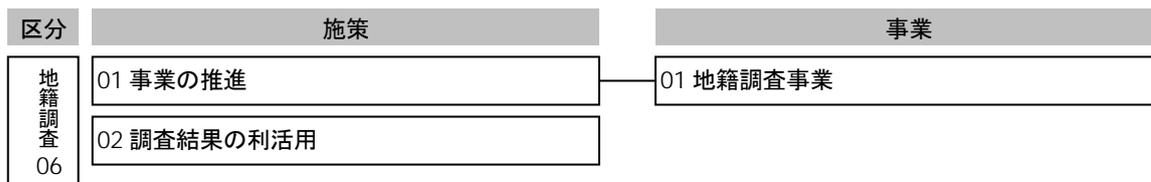
成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18~20)
			平成16年度	平成17年度	平成18年度	
進捗率(%) (実施/計画)	-	-	3	8	100	100
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	-		6,470	5,100	100,000	

6 地籍調査

施策の基本的考え方

- 地権者及び推進委員等の理解と協力を深め、調査体制の強化に努めます。
- 調査結果を生きた情報として幅広い活用に努めます。

施策・事業の体系



01 事業の推進

■地籍調査事業 【事業No.05060101】	担当部課係名	都市	地籍調査課	(内線)	84-302
		建設部	地籍調査係		

事業概要

- 地籍調査*による成果は、登記に反映され、権利の保全・明確化を図るほか、土地利用計画の策定、公共事業(災害復旧等)の円滑な実施などに極めて重要なものである。
- 昭和 55 年度から平成 2 年度までの間に農用地域の調査を終え、平成 3 年度からは、市街地の調査を始めた。平成 16 年度からは、調査項目のひとつである一筆地調査を民間に委託して実施している。
- ・事業期間 S55～H30 ・地籍調査対象面積 96.83Km² (市全体面積 171.88Km²・調査除外面積 75.05Km²)
 ・調査済面積 32.73Km² (S55～H15) ・進捗率(認証率) 33.80%

現況と課題

- 土地の有効利用の推進という土地政策の観点から緊急性の高い地域(地震対策強化地域)については、調査項目の一部を外注型地籍調査として実施することが可能となり、平成 16 年度からこの業務を民間委託で実施している。
- 民間委託を今後も実施するにあたって、次のような課題が考えられる。
 - ①現地調査時に委託業者と同行する必要性の有無・森林(山林)地域の調査方法とその時期。
 - ②地権者多数地区は、本閲覧会場が確保できない事や通常の作業量を大幅に上回る事などが想定される。

今後の事業展開

- 地籍調査の成果は、被災後の復旧作業の円滑化、土地の有効利用の促進や地理情報システム*構築に寄与する重要なものであるため、一年でも速い事業終結が必要と考える。そのためには、①国土交通省が実施 (H16～H18) する都市再生街区基本調査の成果を活用する。②地籍調査と同等以上の精度又は正確さを有している民間の宅地開発事業については、国土調査法第 19 条第 5 項の認証申請が可能となっているので、対象案件がある場合は、担当課と積極的に協議・検討を行い、総合的に地籍の明確化の推進を図る。③これまでに実施した民間委託内容を精査し、その結果を踏まえて対応するとともに、その他の外部委託制度の活用について調査・研究を行う。

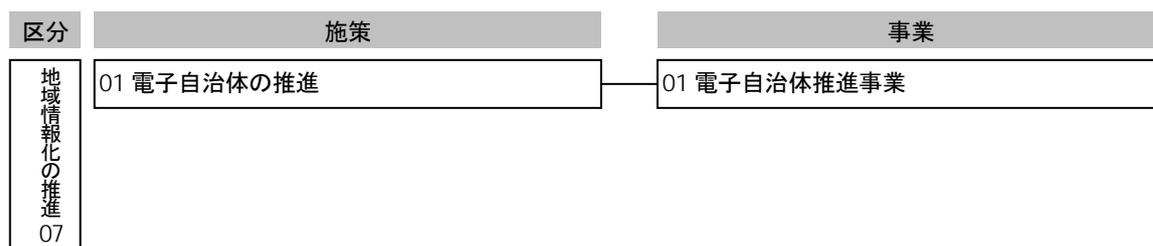
成果指標	実績値	見込み値	目標値			目標値 (H18～20)
			平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	
事業進捗率(%)	33.18	34.29	36.11	37.76	39.18	39.18
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18～20)
	平成 17 年度		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	
	73,770		87,558	105,600	93,080	286,238

7 電子自治体の推進

施策の基本的考え方

- 地域情報化計画*に基づき、情報通信技術（IT）*を活用した簡素で効率的な行政運営を図るとともに、市民の視点に立った、質の高いサービスを提供します。
また、ITの利活用を通じて地域の持続的な発展に寄与します。

施策・事業の体系



01 電子自治体の推進

■電子自治体推進事業 【事業No.05070101】	担当部課係名	企画部	情報政策課	(内線)	3220
			情報企画係・情報推進 係・情報管理系		3231 3705

事業概要

- 地域情報化計画に基づき、情報通信技術(IT)を活用した簡素で効率的な行政運営を図るとともに、市民の立場に立った質の高いサービスを提供する。
- 特に電子自治体*の構築を通じて、庁内においては個別のシステムの完成度を高めるばかりでなく、すべてのシステムにおける全体最適化を進めるとともに、地域全体として地元IT産業の育成を目指すものである。

現況と課題

- 現在本市で使用している大型汎用機システムは、構築に多大な経費がかかるとともに、維持管理、保守及び改修費用など総コストは、クライアントサーバ方式*やWEB形式*に比較して非常に高額となっている。
- また、データセーブ*や制度改正等の対応に時間がかかるため、運用時間に制約があり、現在夜間及び土曜日のシステムの運用を控えている状況である。さらに、災害の際の代替手段の確保が困難である。そのため、大型汎用機システムのダウンサイジング*、アウトソーシング*への早期移行が不可欠である。

今後の事業展開

- システムの安全性や安定性に配慮するとともに、住民サービスの向上に積極的に取り組むため、「こうふDO計画」を策定し、情報システムの全体最適化を通じて、経費削減を実現していく。また、災害時やコンピュータ犯罪*についても十分な対策を施していく。
- この「こうふDO計画*」は、経費削減においては現行経費の20%から30%の削減を目標としつつ、一時的な構築経費の負担増を抑制するため、IT-PFI手法*により甲府市の経費負担を平準化するとともに、情報システムの品質を確保しようとするものである。
- 大枠の予定としては、18年度に計画策定及び構築業者の選定を行い、19・20年度で再構築、システム移行を実施し、21年度には新たなシステムが順次稼動することとしている。

成果指標	実績値		見込み値			目標値			目標値合計 (H18~20)
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
事業費 (千円)	当初予算額(千円)		計画額(千円)			計画額合計 (H18~20)			
	平成17年度		平成18年度	平成19年度	平成20年度				
	—		38,000	38,000	38,000	114,000			